

1 研究主題

主体的・対話的な学びの充実による活用力の向上をめざして
ー算数科の指導を中心としてー

2 主題設定の理由

今日の社会は、情報化、科学技術の進歩等により、「知識基盤社会」であるといわれている。この社会の変化に柔軟に対応し、グローバル化が叫ばれる中、国際社会で活躍したり貢献したりする日本人の育成が重要な課題である。このようななか、学校教育においては、「生きる力」としての確かな学力を身に付けた児童の育成が重要であると考え。また、PISA 調査等から、身に付けた知識や技能を生活や学習に活用したり、学ぶ意欲を高めたりすることが課題として挙げられている。

このような情勢のもと、算数科では「算数的活動の楽しさ」「表現する能力の育成」「活用することの重視」が新たな方向性として示されている。児童が意欲をもって課題に取り組み、児童同士が共に学び合いながら「確かな学力」を身に付けることのできる授業づくりをしていくことが求められている。

佐賀県学習状況調査の4月調査と12月調査を同一児童で県正答率を基準に経年変化を見てみると、算数における「教科全体」では、5年生で1.01から1.03へ、6年生で0.87から0.95へと向上が見られた。評価の観点「考え方」において、5年生で0.98から0.95へと若干の低下が見られたが、6年生で0.81から0.86へと向上が見られた。佐賀県の課題とされている「活用」においては、6年生で0.84から0.77への低下が見られたが、5年生で0.93から0.98へと向上が見られた。

これらの調査結果から、算数科全体としては向上が見られたが、観点別での「数学的な考え方」や「活用」する力について向上のばらつきが見られたため、本校では、「数学的な考え方」や「活用」する力を育成していくことが課題と考える。これらの課題を解決するためには、児童が、多様な情報や考えの中からよりよいものを選択し、それらを活用しながら主体的に表現できるようにしていくことが必要であると考え。

そこで本校では、学び合いの段階における「主体的で対話的な学びの充実」に焦点を当てながら授業改善に取り組み、図・式・言葉などを用いて考えを伝え合うことで、他者の考えのよさに気付くことができる。そのことで、自分の考えが広がったり、深まったりしたことを感じるができるであろうと考え、本主題を設定した。

3 めざす子ども像

低学年 学び合いの中で、具体物などを用いて自分の考えを伝えることができる子

中学年 学び合いの中で、他者の考えのよさに気付くことができる子

高学年 自分の考えと他者の考えを伝え合う中で、よりよい考えを導き出すことができる子

4 研究の仮説

全員が共通した課題意識をもち、図・式・言葉などを用いて考えを伝え合うことで、他者の考えのよさに気付く児童を育むことができるであろう。

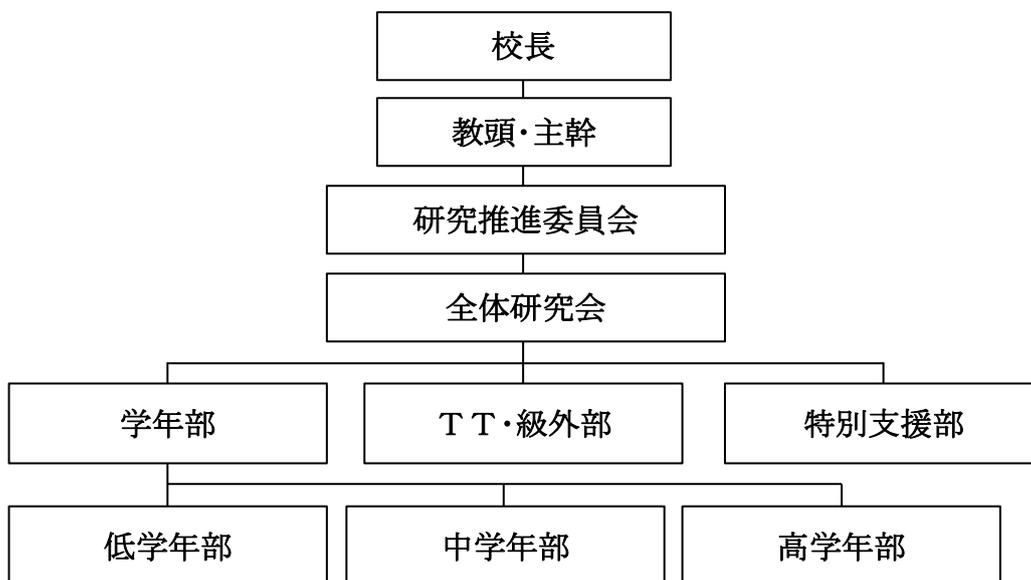
5 研究の内容

自分の考えを伝えたり、他者の考えのよさに気付いたりするために、一人ひとりが問題に向き合う時間を保障し、学び合いでの教師の指導方法や場の設定の仕方を探る。

6 研究の方法

- (1) 講師招聘による理論研究を行うと共に、研究授業及び授業研究会を行い、理論の実践化に努める。
- (2) 児童の意識調査等を行い、児童の変容について調査する。

7 研究の組織



8 本校における活用力のとらえ方

<視点1>

意欲をもって、自らの力を使って問題を解決しようとする力

<視点2>

学び合いにおいて友達の考えのよさに気づき、自分の考えを広げたり、深めたりする力